

令和 7 年度 第 2 回富山支部評議会の概要報告

開 催 日	令和 7 年 10 月 23 日（木）10：00～12：00
会 場	翡翠の間（ボルフアートとやま 4 階）
議 題	（1） 令和 8 年度平均保険料率について （2） 令和 8 年度支部事業計画策定に向けた意見聴取について （3） 協会けんぽ DX について
出 席 者	評議員 学識経験者：森口評議員（議長）、岡本評議員、島崎評議員 事業主代表：高野評議員、平野評議員 被保険者代表：河口評議員、三浦評議員
報 告 概 要 (主な意見等)	事務局より各議題について資料により説明。委員の主な意見等は以下のとおり。 議題 1. 令和 8 年度平均保険料率について 資料 1-1 令和 7 年度運営委員会・評議会のスケジュール 資料 1-2 協会けんぽ（医療分）の 2024（令和 6）年度決算を足元とした 収支見通し（2025（令和 7）年 9 月試算）について 資料 1-3 2026（令和 8）年度保険料率に関する論点について 資料 1-4 その他 （学識経験者） 2021 年の医療費の伸び率が 7.9%と非常に高くなっているが、コロナの影響か。異常時、例外は除いて平均を出すべきではないか。 〈事務局〉 2020 年、2021 年の伸び率が大きく変動しているのはコロナによる影響があると思われる。それ以外の年においても大きく変動しているところがあり、どの値を省くかというのは判断が難しいため、あくまで機械的に平均を試算している。 （学識経験者） 準備金の 5 兆 8000 億円が他の保険者と比較して突出して多いわけではないことがわかった。また、厚労省の資料でも 50 年後には働く世代が全人口の半分ぐらいになると予想されており、準備金は持っていたほうがよい。制度を維持するため平均保険料率 10%維持は致し方がない考える。ただし、被扶養者が何人いても保険料は変わらないといったことなども、相互扶助の考えに基づいているとは

いえ、医療費が伸びる原因の一つだと思うので、制度についても将来的に何かしらの対策が必要なのではないか。

（被保険者代表）

平均保険料率を下げることによって国庫補助も減るというリスクもあるという説明を聞くと制度維持のためには平均保険料率 10%維持が必要だと考えるが、一方で賃上げにより事業主や被保険者の保険料負担も大きく、物価高により非常に生活が苦しくなっている。インセンティブ分など一定程度の差はやむを得ないが都道府県ごとの保険料率の格差は広がっており、このままでは健康保険制度が全国一律のサービスと言えなくなるのではないかと懸念している。

（事業主代表）

今のところは長年平均保険料率 10%維持しているので致し方がないと思う。しかし、企業経営側からすれば賃金や管理費が上昇し、それにつられて社会保険料もどんどん上昇していく中で利益が非常に出しづらく大変苦労していることも理解してほしい。

準備金の長期運用はインフレになるとお金の価値がどんどん目減りし、積み上げた準備金も価値が下がっていくので、運用して備えることは非常に良い取り組みだと考える。ただ、リスクがあるので運用状況について適宜報告をお願いしたい。

（議長）

準備金の運用に関するリスクについて説明いただきたい。

〈事務局〉

国債は途中で解約すると元本割れするリスクがあるため、絶対に使う必要のない資金を運用に回すことが重要だと考えている。協会の方針として満期保有を原則とする国債による運用を行うこととしており、実際にはそれほどリスクはないと考えている。

（事業主代表）

ジェネリック医薬品の供給不足について改善しているのか。

〈事務局〉

医薬品によっては一時期の供給不足からは改善しているものもある。富山支部加入者は数量ベースで 90%程度ジェネリック医薬品を使っている。

（事業主代表）

県内の医療機関が赤字のため使用する医療機器の購入や更新ができないと報道されているが協会けんぽでも把握しているのか。

〈事務局〉

新聞報道などで県内医療機関の経営が苦しくなっていることは把握している。医師、看護師等の賃上げによる人件費の増加、医療機器や医薬品等の高騰による負担の増加により病院経営が苦しくなっているのは事実である。そのため、来年度の診療報酬改定では大幅な見直しが行われるのではな

いかと予想している。

（事業主代表）

病院のメンテナンス工事や新しい医療機器を入れる改修工事など計画されるが、予算の都合で頓挫や延期することが増えた。特に公立の病院だと昔に比べて新しい機材に投資していくのはなかなか厳しくなっていると感じる。

（被保険者代表）

実質賃金がマイナスで手取りも目減りしている中、個人的には平均保険料率 10%から少しでも下げてほしいという思いはある。

平均寿命が延びた場合、健康寿命と平均寿命の差で医療費が増えると思込まれるが、健康経営の取り組みを今後どのように反映させていくのか。

〈事務局〉

とやま健康企業宣言は年間で 100 社程度増えており、健康企業宣言されている加入事業所の従業員数は全体の 4 割程度となり全国的にもかなり高い水準である。

健康企業宣言している事業所の健診実施率は 98.9%であり、健康企業宣言していない事業所の健診実施率は 70%台とかなりの差がある。協会けんぽとしてまずは健康企業宣言を広げ、宣言事業所を通じて加入者皆様の健康増進を図ることが活動の中心になっていくと考える。

（議長）

全体としては平均保険料率 10%を維持することはやむを得ないという意見であった。各評議員から寄せられた様々な意見を本部へ報告してほしい。

議題 2. 令和 8 年度支部事業計画策定に向けた意見聴取について

資料 2 令和 8 年度支部事業計画策定に向けた意見聴取について

別紙 2024 年度支部別スコアリングレポート

（被保険者代表）

加入者が多い金属工業、化学工業等において医療費が低い要因の分析をしているのか。事業所の取り組みによる結果なのか検証して、もし好事例があれば他の事業所に展開してほしい。

医療費が低いことと健康であることはイコールではない。受診控えにより大病を患うのであれば意味がなく、金属工業、化学工業等の事業所に訪問した際に医療費が低い要因や取り組み等があれば聞いてみてはどうか。

（学識経験者）

血糖の動画の再生回数が非常に伸びていることはよいことだが、途中でリタイヤしている人も多いのではないかと。人の行動変容につながるための広報、周知について専門の方に監修してもらうとよい。あとハイリスクアプローチについて代謝リスク保有者全員ではなく、今回初めてリスクに該当した人や連続で該当している人など対象を絞って、効果的なアプローチ方法を考えるとよい。また、睡眠で

休養が取れていない方の有病率や受診率との比較といった分析はあるか

〈事務局〉

動画に関するご意見については今後の参考とさせていただく。睡眠で休養が取れていない方の有病率や受診率との比較といった分析はないが、今年度実施を予定しているウェアラブル端末を利用した睡眠健診によって本人の認識と睡眠の質について分析したいと考えている。

（事業主代表）

睡眠で休養が取れていない者の割合について全国順位が上がったのは富山支部が改善したということか。

〈事務局〉

問診表による回答でしかないが、休養が取れていないと回答した者の割合が下がったものである。

（事業主代表）

富山支部の課題についてせっかく分析してまとめた結果もほとんどの県民や事業主は知らない。富山支部が分析した健康課題について、県や自治体と協力しメディアを通じてPRできるとよい。

（被保険者代表）

支部疾病分類別一人当たり医療費を見ると新生物が高くなっている。国立がん研究センターの発表によると女性の部位別がん罹患率は1位が乳房で子宮がんは5位となっている。亡くなる順位として子宮がんはトップ5にも入っておらず、順位は低い。死亡につながりにくい子宮がんのワクチン接種を国は推進していたが、子宮がんのワクチンとそれ以外のワクチンの力の入れ方についてどう考えているか。

〈事務局〉

ワクチンとは直接関係ないところではあるが、協会けんぽが実施している子宮頸がん検診の補助を20歳から対象として実施している。

今年度初めて乳がん・子宮頸がん検診の受診勧奨事業を行った。それをきっかけに受診していただいた方もいるので効果を見ながら今後も定期的な検診受診を進めていきたい。

（議長）

健康診断の問診票に「1回30分以上の軽く汗をかく運動」や「日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施」とあるが何をすれば当てはまるのかわかりにくいので、具体例を周知するとよい。

議題 3. 協会けんぽ DX について

資料 3 協会けんぽ DX について（電子申請、けんぽアプリ）

（学識経験者）

けんぽアプリの将来像のところに特定保健指導も記載されているが、これはアプリを入れている人に直接アプローチできると捉えてよろしいか。

〈事務局〉

アプリを通じた加入者自身へのアプローチという構想を持っているが、バージョン 0 ではそこまでは至っていない。

以上

特 記 事 項

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・傍聴者なし・次回 令和 8 年 1 月開催予定 |
|---|